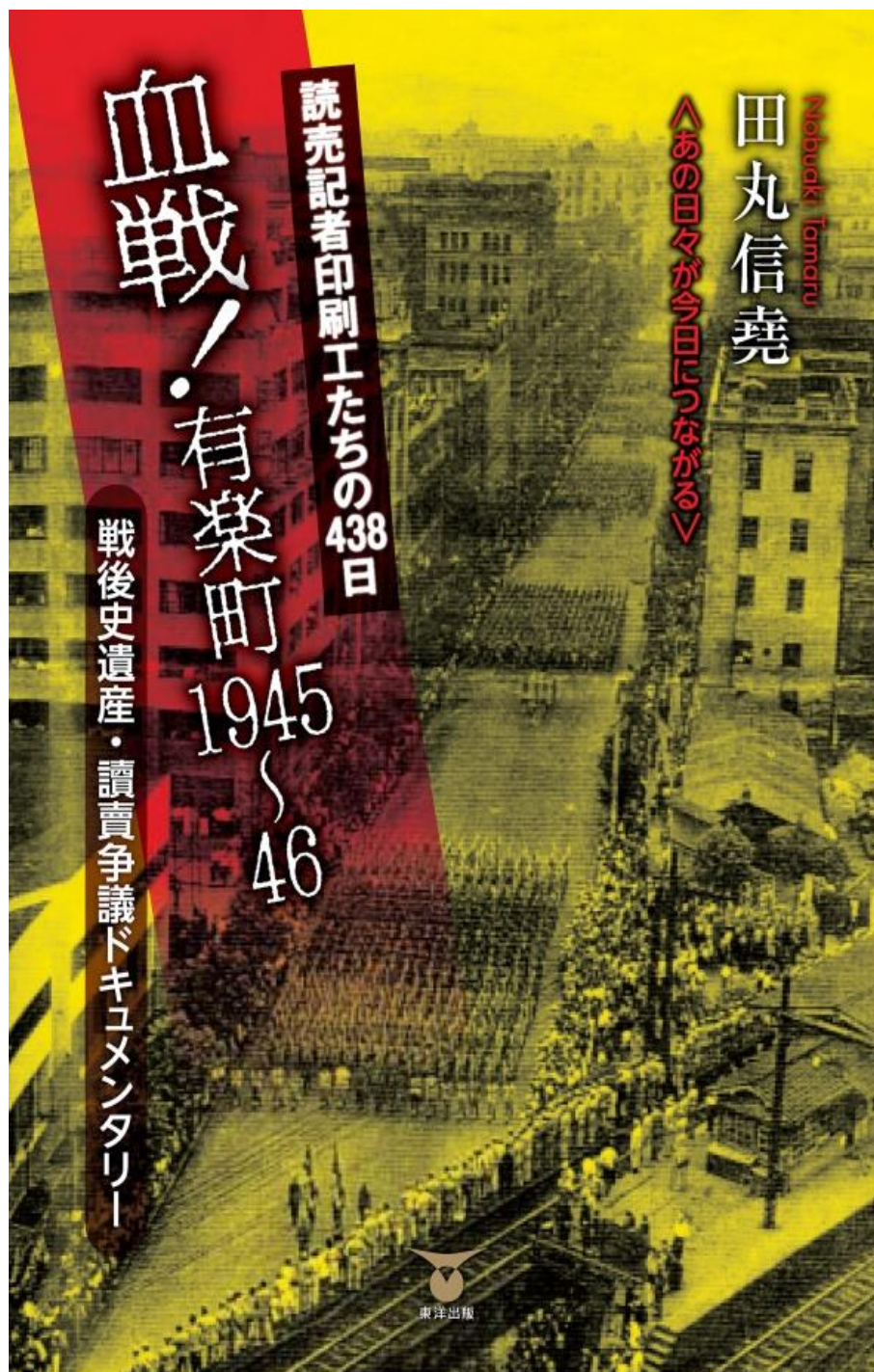


## 電子書籍「血戦！有楽町 1945～46」新発売

敗戦。人々は新しい日本の建設を誓い合った。

だが立ちはだかった者が。

その8月からの記録・・・あの日々が今日につながっている。



上は表紙。写真はその当時の占領軍パレード。有楽町駅（写真下部 現JR駅）周辺は毎日新聞社（写真左）、読売（写真右ビル）、朝日（駅手前）があり「新聞社街」と呼ばれていた。

## 戦後史は東京・有楽町から始まった。

\* 1945（昭和 20）年 8 月、新聞各社に、国民を戦争に駆りたてた**新聞社の戦争責任**を問う**社長ら幹部の退陣と編集民主化を求める運動**が起こった。

\* この運動を代表者の解雇で抑えようとしたのが読売社主であった（第一次争議）。

\* **米軍の占領政策**はポツダム宣言による日本民主化政策から翌 46 年春米ソ冷戦開始で日本をソ連に対抗する国にする政策に変わった。その激動のなかで天下分け目の第二次**読売争議**が闘われた。

\* **本書は有楽町界隈を舞台に、新聞・放送（NHK）そして全国の運動を争議記録をもとに、日記風に、会話文体で構成したドキュメンタリー読み物です。**

戦後史の原点が 70 年を経て今復元された。

### <出版社からのおすすめ>

二次大戦後の混乱の中に生じたメディア戦後史に残る労働スト「読売争議」。

これまで多くを語られてこなかったその全貌を、刻々と綴った貴重なドキュメンタリー。

戦後わずか1年と2カ月のこの間に、それから先の日本の未来が決められた。

「あの日々が今日につながっている」

### <お求めは>

検索⇒「**honto 血戦有楽町**」 または、

[https://honto.jp/ebook/pd\\_28765118.html](https://honto.jp/ebook/pd_28765118.html)

定価 1000 円 + 税 本文 4 1 6 ページ

### 興味をお持ちいただいた方々へお願い

1、この URL <http://tamar.la.coocan.jp/kessen.pdf> をあなたの友人知人、団体に転送・拡散していただけないか。

1、レビュー書き込み。所属されている団体の会報や機関誌などで書評、紹介などお願いできないか。 以上、お願いします。

## <改訂版あとがき 追伸>

第一次争議の立役者鈴木東民氏は当時50歳。1895（明治28）年生まれ。日清戦争の戦勝に沸いた年です。生家は代々岩手の医家。北海道生まれの弟は北民、下の弟は民雄。父親が福沢諭吉を尊敬しており、兄弟そろっての「民」は民主主義の民だったとか。

明治初期の自由民権運動は過酷な弾圧で沈黙させられ大日本帝国憲法が発布（1889年）されました。が、やがて大正デモクラシーと呼ばれる時代に受け継がれ、東民は吉野作造の民本主義（天皇主権の下での立憲民主主義）の影響をうけます。

連合国が日本降伏を促すために発した「ポツダム宣言」の一項「日本の民主主義的傾向の復活強化」は、それまで約百年の日本の近代民主主義を開花させるもので、当時の日本国民に抵抗なく受け入れられ、日本国憲法は大歓迎されました。

民主主義を毛嫌いしてきた支配者層にとっては「押し付け憲法」でしょう。

が、国民が押し付けられたのは属国化、植民地主義です。そして憲法9条があるにもかかわらず1950年8月、自衛隊（発足当初は警察予備隊）を創設させられました。占領政策が連合国としての「ポツダム宣言実施」から、日本をソ連に対抗するアメリカ言いなりの国にする、アメリカの国益への転換です。

旧支配者たちは喜んで被植民地化を受け入れました。おかげで戦争責任が免責され、復権できました。

改憲が日程に上る今、その原点——讀賣争議を改めて振り返っておきたいと考えました。

2017年11月 田丸信堯（たまるのぶたか）